

議会だより とくのはしま


第168号
 平成24年4月1日

発行 佐之島町議会 編集 議会広報編集委員会 〒991-7192 鹿児島県大島郡佐之島町亀津7203
 TEL 0997 (82) 1111 FAX 0997 (82) 1101



第55回奄美群島市町村議会議員大会（瀬戸内町）

第2回定例会

日程：6月19日～6月22日

☆ 審議された案件と議決結果	12
☆ いっぱん質問	13
☆ 議会のうごき	14・15
☆ 群島市町村議会議員大会	19
☆ 委員会報告	20
☆ 議会構成	22

いっばん 質問

8月定例会には、6人の議員が登壇し、北部地区活性化、住宅リフォーム助成制度、農業振興、さらに河川整備事業など町政全般にわたり執行部の考えをたがしました。質問と答弁の要旨は次のとおりです。

場所の変更はないか

内 重男 議員



きは、ふれないことが大事だと考える。

いつ結審

結審中の「土地取得差し止め」訴訟はいつ結審か、「町長は不当な土地購入代金1億6千万円、穂之島町に弁償すること」と鹿児島地裁で提訴されているが、今回も結審費用を町民の税金から出すのか。

結審期日は未定

米原建設部長 これまで、口頭弁論は7回開かれており、8回目の弁論が7月10日に予定されているが、結審日については未定だ。

新たな売買契約を

穂之島の移設撤回で、若地転用申請取り下げの農地4筆をどのように処理したか、元地主に返却を戻したら、公社と地主間で新たに売買契約書を取り交わすのが、社会通念上、一般的と思うが。

3者で確認書 を交わす

古賀副町長 計画の見直しにより、農地法に従って、登記を元の地権者へ戻す手続きを行った。その際に、今後の利用計画を踏まえ、町と土地

開発公社と元の地権者の3者で、土地や金銭の取り扱ったについての確認書を取り交わすなど、適正に処理した。

その他の質問事項
○総合福祉施設整備計画について
○町営住宅工事について

決断はふれない

高岡町長 賛否両論あるのは承知している。他事を前に進めるためでは、いつかは決断しなければならぬ。熱意と熱意を返して決断したと

費用は町負担で

高岡町長 早く結審をお願いして、もともとこうであるが、もう少し時間を要すると聞いている。費用は、町長が報告であるため町の負担で行う。

計画が見直される公社取得地



住宅リフォーム助成で

経済効果を

幸 千恵子 議員



安心安全な
学校環境を

この助成制度の導入も、校
舎の補修・整備に予算を確
保して今後も取り組む。

点検修理に努力

点検修理に努力

課外対象に
「収入減」も

今年度の課外収入減は明
6から、保険料納入に
も影響する。国保料の減免
対象項目に「収入減」の追
加を、また、窓口一部負担
減免制度が利用できるよう、
窓口での十分な説明と支援
が必要だ。

規則改正を検討

住田保健福祉部長
農作物の減収による国
保料の減額又は、免除につ
いては町規則での規定がな
いため規則改正を検討すも、
郡内市町村の状況を把握中
である。

医療費窓口一部負担金減
免制度については、町広報
紙掲載や役場窓口での説明
等で周知を図る。

その他の町内事項

6000坪の土地購入

町内について

救急ヘリポート設置につ
いて

農業委員選出について



冷たい水がほしい暑い夏、不足しがちな冷水機

住宅リフォーム助成制
度は、全国330以上の
市町村で実施され、助成
費用の10〜18倍の経済効果
が実証されている。町内
にお金が回り、小さい業者も
元締めになれるこの制度の
実施を検討できないか。

助成制度導入を 検討

町長
住宅リフォーム助成制
度を、社会資本整備総合交
付金の提案事項でできない
か、果へ要望を行い、町議
政務審議会と合わせて、

夏本番を前に、各学校
の夏風情や冷水機の点
検修理は万全か。また、津
波遊走避難訓練の実施や、
通学路の安全対策はどのよ
うにしているか。安全な環境づ
くりには十分な予算配分は必
要だ。

子どもを優先に

町長
学校では、津波を想定
した避難場所の確保、安全
な登下校の指導をしている。
町政として、児童生
徒の生命や健康に直結する
ことを優先して、物品や機

28日	25日	24日	22日	19日	15日	13日	6月	31日	30日	25日	24日	19日	18日	17日	16日	15日	13日	12日	5月	29日
議会だより編集委員 会	合志者協会	合志者協会	合志者協会	合志者協会	合志者協会	合志者協会	合志者協会	合志者協会	合志者協会	合志者協会	合志者協会	合志者協会	合志者協会	合志者協会	合志者協会	合志者協会	合志者協会	合志者協会	合志者協会	合志者協会

急げ安全対策を

是 枝 孝太郎 議員



問 南区の地域住民の生活に直結するものがある丹向川は、生活圏が広がっているが、安全対策として、防災対策を町としてどのように考えているのか、具体的な対策を聞きたい。

地域との協働 により

答 地域連携部長
丹向川は古くから、河川と道路の役割を果たしている。

河川整備だけを行うと、孤立状態ができ、整備が難

しい。

今の機能を果たせながら整備を行うためには、地域の方々の意見をいれた上で、検討・協議・協議により方針を決めたい。

河川と道路の役割を
持つ丹向川



地域での組織化

答 防災対策については、南区自主防災組織のなかで丹向川地域の組織化を検討して、災害防止に努めたい。

加入率アップを

問 平成27年の鶴之島用水ダム供用開始に向けてパイプライン敷設工事も急ピッチで行われている。加入率アップのための啓発活動をどの様に行っているのか。また、鶴之島用水土地改良区にかかわる各種団体の協力も得ている。

畑かん管線 推進

答 農内耕地部長
畑かん管線推進については、鶴之島地域総合推進本部で重点的に取り組むとされ、関係機関で連携される土地利用地かん部会では鶴之島地域における畑かん管線推進体制の再

編、強化に向けて畑かん管線でのジョイント策定に取り組んでいる。

購買者増加を

問 鶴之島中央果畜市場開催の盛りが月一回行われている。新たな購買者の開拓と参加率向上を図るため、あまろ農園、内用牛購買会と連携をとり対策を図る必要があるのではないか。

啓発活動を展開

答 国見農林水産部長
現在、各町・JA・農興会で、市場運営費・購買者対策費等、毎年、県内外へ啓発活動を展開している。

購買者への助成は、各関係機関の意見集約ができた段階で各町の畜産担当課と予算等について、連携協議する。

あなたのご意見をお寄せください
議会に対する質問やご意見、また本紙に対するご意見やご要望がございましたら議会事務局までご連絡ください。
鶴之島町議会事務局
TEL 0997-82-1111 (内線831番)

実情に合った緩和を

広田 勉 議員



すべし所は編入する作業を現在進めている。地法の農業者の理解を得ながら、全体見直しを進めていく。

高麗3点セットの現状

ち運営をしていく。旬菜は、新たなシステム、メニューで7月から再開を予定している。

土地開発公社は、JAあまみから2億5千万円借りて土地を購入した。単から指摘され、売り主に売却を戻したが、返金はなく金に振り込まれた。年97万円の利息を払うようだが、無利で税金を納めている町民に負担がでるのか。

利率も税費だ

早急な土地活用

いと考える。今後、早急に土地の活用を進めることで、無駄をなくしたい。

平成21年に農地法・農地法が改正され、農用地域からの除外要件が厳格化され、5つの除外要件を満たさない事業が多く発生している。農業者の住居確保ができません。緩和が求められている。地域の実情に合った対応が必要では。

全体見直しを

農用地域の編入・除外は、農地法を順守していく。都市計画区域内と農地等の外周部を、実態に応じて除外するとともに、編入

新たな協議会で運営

唐尼島のアンテナショップは休業中。神之島市場は加工センターへ移る予定がまだ同じ場所で開催しているが、どうなっているのか。この運営協議会の構成と、責任体制は。

政本地場営業課長 4月から新たな「ヘルシーブランド推進協議会」が3点セットで運営をしていく。

神之島市場は、今までの場所を、人件費を抑えなが



運営・管理に工夫が必要な神之島市場

みんなで議会を傍聴してみませんか。



6月議会傍聴席の様子

手続きは簡単で、傍聴席入口の受付名簿に住所・氏名を記入していただくだけです。

詳しくは議会事務局までお問い合わせください。

電話 62-1111 (内線331番)

定例会は3月・6月・9月・12月に開催されます。

高岡町長 利息をいかに安くするかは重要であり、この事業を早く進めることが一番よ

その他の質問事項 ○農業者の方について ○就農対策について

都市農村交流事業の活用

福岡 兵八郎 議員



地域活性化策の一つ

問 元農林水産局長
この事業は宿泊・農産物販売活動や、観光との連携で都市住民との交流、田舎で働き隊・定年専業主婦などの都市人材の活用で、定住・半定住の促進を図り、地域の雇用の場の確保、農業者の所得の向上、集落の維持・再生・活性化につながる活動である。

交換より地元を優先

問 本町における人口増と地域活性化対策は農産物の販路である。都市農村交流事業の目的は何か。この事業導入は考えられないか。

答 高岡町長
農産物の雇用拡大を政策としており、当町の農産物需向上を最優先としたい。地元が安定してはじめて交流につながるかと考えらる。

東天城にも若者向きの住宅を

問 当時の北部開発委員会での住民アンケートの重点課題は、住宅建設であった。集落の過疎化傾向にあるのは住宅不足が原因であり、I・Uターン対策を含めて東天城に若者向きの住宅を求めらる。

当時の北部開発委員会での住民アンケートの重点課題は、住宅建設であった。集落の過疎化傾向にあるのは住宅不足が原因であり、I・Uターン対策を含めて東天城に若者向きの住宅を求めらる。



改修が終わった阿多野平住宅

年次的に住宅を計画

答 農産局長
北津地区の住宅計画は

徳之島町公営住宅等長寿命化計画及び、今後10年間の財政シミュレーションの計画のなかで、山田地区一戸一世帯専用、大当・花畑住宅トイレ水洗化、山内千川住宅建て替えを計画している。

土地代金も返却すべき

問 町土地開発公社が取得した土地のうち農地4筆7108平方メートルが農地法違反で元地主に4月23日に登記を戻してある。農地代金8381万5400円も元地主から開発公社に返却すべきなのになぜしないのか。

答 古賀副町長
当該農地は、総合福祉施設を整備する計画があることから、今後町が取得する予定、農地法に基づき登記を元に戻したが、新たな計画により再度取得することから、元の地主への事務手数料や税の負担をなくするため、町と土地開発公社と元の地主との3者で調整等を交わして土地代金を返さない処理をした。

名義変更は法の順守

問 高岡町長
農地法での問題解決を図るために名義を戻し、再度正当な方法で名義変更をすることが大事である。

新たな計画で

群島市町村議会議員大会

第56回奄美群島市町村議会議員大会が、6月26日クロマツロ港(日本一)のまち瀬戸内町で開会されました。

当日は、瀬戸内町立清水運動公園の体育館で12市町村の議会議員、市町村長、奄美群島選出の県議会議員、中津田、打越あかしの両国會議員が出席し、会長あいさつ、自治功労表彰、職員8名、職員2名、来賓祝辞、国政報告、県政報告



熱心に討論する議員の皆さん

がありました。

また、各市町村(6プロツク)や議長会から提出された議案7件は、県議の皆さんからそれぞれの分野で助言を受け、すべて採択されました。その後瀬戸内町出身で(有)トレーニンクセンターサンブレイ代表の宮嶋隆氏が「出逢いと縁と絆」と題して講話を行いました。

前日の24日には加計回廊

島へフェリーで渡り、太平洋戦争の戦場、島原教壇文学碑やクロマツロの雄雄港などを視察しました。



講師の宮嶋 隆氏

受賞 おめでとう

○大島町村議会議員会長の自治功労表彰(在職10年以上)

- 広田 勉
- 藤井 裕正
- 保岡 盛寿
- 是枝 孝太郎

視察報告

6月24日の頃、議会事務局と議員12人は、他の7市町村議員とともに古仁屋港からフェリーで加計島(大島)に渡った。主な目的は、大島海峡で行われている「クロマツロの雄雄」の視察だ。その前に、瀬戸内町に於いて太平洋戦争当時の戦跡を巡り平和について考える時間を頂いた。



雄雄マツロ出陣日本一の瀬戸内町のいけす

まず初めは、春之瀬の岩のレプリカが当時の様子も風わたる形で設置されていた。船の待渡場だ。この18歳津波部隊の隊長は島原教壇氏。昭和20年8月13日に出陣命令があったが、出陣の準備中に怪我を覚えていた。次は、大島海峡に向かった。安藤船には軍用車庫があり、その上の観測所2000坪の高台には、大島海峡に導入してくる潜水艦の監視と爆撃を行う金子手筒野情報所があった。そこから大島海峡が一望でき、眼下に広がる真つ青な海がすばらしかった。このきれいな海が、隠れ家としてうつつの場所として昔から

使われているが、潮を半分ずつ交代で休めることで眠っているらしい。訪問中ちよと午後2時の時間になり、餌である大量の魚が次々にスロップでいけすの中央あたり投げ込まれるとすぐにマグロが飛びついた。餌は朝夕2回、餌のあたり具合で体量にも差が出るようだ。市場には体量30キログラムほどから出荷される。瀬戸内には他に3カ所養殖場があり、近畿大学の養殖場ではいけすで産卵させたうえ別の場所でも化させ産卵から大きくしていく完全養殖を目指している。マグロの寿命は近畿大学で確認したのは23歳。気候にも環境にも事なれた産かな大島海峡だからこそできる養殖であり、マグロの出荷は瀬戸内が日本一となっている。「日本の食卓からマグロが消える」と心配されている昨今だが、瀬戸内でもマグロの養殖を続けなくてはならない。どうだろうか。ノウハウは瀬戸内にある。

伊 千恵子

議員研修会レポート

5月10日鹿児島市で開催された議員研修会（県町村議会議長会主催）に議員16人が参加しました。研修会では、政治ジャーナリストの田嶋勇弘氏が「愛しき日本を愛する」と題して、また、県危機管理課長高橋浩志氏が「県危機管理課長としての役割」と題して講演がありました。各常任委員長が講演の内容をレポートします。

「愛しき日本、危機を乗り越えるために」

乗り越えるために

平成23年9月11日、この日は東日本大震災の日として忘れられない。地震、津波、原発事故は被災地に未曾有の災害をもたらした。津波は一瞬にして全てを飲み込み無惨な惨劇を演じた。

原発事故は、不幸な連鎖の結果と言われている。原因究明が国全原発事故調査委員会で行われた。当時の官廳の対応は適切であったのか関係者が参考人陳述された。そこでは、自己防衛と責任転嫁の証言が繰り返され本気でこの国を「命をかけて守る」べき指導者であったのか不審がぬぐえない。

この様に、昨年3月11日以降日本は改めて自らの日本人としての本質を再評価したのでないか、

とここで、被災地の住民

し政府は中心意識（メルトダウン）しようとしている。原因は政治家のみにあるのか、ポピュリズム（大衆迎合主義）国民受けを狙った政策いわゆる財源無きバラマキ政策を支持した国民も反省しなければならぬ。今日日本は、政治・財政が危機的状況にある。首相を一年交代で8人も変えたこの国の政治は、果たして正當と言えるのか、政府の不安定が危機をまわっている。この危機を乗り越えるために、災害時に示した日本の本質をもう一度示し、この日本を「命をかけて守る」指導者の出現を待ちたい。「愛しき日本、危機を乗り越えるために」

経済文藝厚生常任委員長 木原 良浩

鹿児島県の防災・危機管理 対策について

防災・危機管理対策、この言葉を聞くとも難しさが全世界に衝撃を与えたあの未曾有の3・11が顕著によりみかえってくると思う。いまだに震災の光が見えず故郷を離れ避難生活を余儀なくされている多くの人たちがいることを、私たちは、忘れてはならない。この東日本大震災の悲惨な教訓を踏まえ、これまでの防災対策のあり方を大きく見直す必要性が今求められている。

本県では、一般災害・震災・火山災害・原子力災害対策を基本的に県地産防災計画見直し検討委員会等での検討がなされ、防災対策が実施されている。現在想定されている5個の地震による津波の発生で被害の広域化、防災拠点の機能の喪失、情報通信機能喪失、民



地域の安全・安心は町民相互の連携と協働で

訓練等、防災に対する取り組みがなされている。今後多岐にわたるさらなる防災・危機管理対策が求められる。本県の防災対策基本条例の基本理念として防災対策は、①県民が自らの身は自ら守る「自助」②地域の住民が互いに助け合って地域の安全を確保する「共助」③市町村、県及び防災関係機関が県民の生命、身体及び財産を守るために行う「公助」、「自助・共助・公助」を基本にそれぞれ「県民等・市町村・県及び防災関係機関」が役割を果たすとともに相互に連携・協働して行うとされている。さらには、東日本大震災を踏まえ防災、県内市町村間の広域連携体制の整備等が進められている。

県民たちが培ってきた「絆の精神」で自分たちの地域は自分たちで守るという意識を持って、万が一に備えていたことが極めて大事であると思われる。

経済建設常任委員長 藤井 裕正

各種組合議会の動き

8月23日に行われた消防組合議会では消防救急デジタル無線整備事業と消防小型指令台整備事業などの審議が行われました。また、6月26日に行われた愛ランド広域連合議会では平成24年度補正予算（第1号）などの審議が行われました。審議の内容と各議会構成は次のとおりです。

徳之島地区消防組合議会

- ＊構成
 管理委員 大久保 明 伊仙町長
 副管理委員 高岡 秀規 徳之島町長
 大久 幸助 天城町長
 議長 保岡 達寿 徳之島町議会副議長
 前田 芳作 天城町議会
 監査（学識経験者） 仲田 克幸 徳之島町
 監査（議会代表） 藤井 橋正 徳之島町議会
 議員 芝田 竜星 徳之島町議会
 水岡 良一 伊仙町議会
 前 藤志 伊仙町議会
 水田 誠 伊仙町議会
 秋田 浩平 天城町議会
 久田 高志 天城町議会

徳之島地区消防組合議会は、徳之島三カ町で運営される、徳之島町からは保岡達寿議員、藤井橋正議員、芝田竜星の3人が消防組合議会議員として出席しています。

現在、進めている大きな事業は、消防救急デジタル無線整備事業、消防小型指令台整備事業があります。消防救急デジタル無線整備事業の必要性として、消防用無線局における150メガヘルツ（MHz）帯の帯域の確保が平成28年6月31日までとなり、それ以降の使用は違法になるため、鹿児島県の整備スケジュールでも平成25年度から27年度までの整備計画であり、徳之島地区消防組合では、平成23年度、国の補正予算

（第3号）に係る消防防災関連事業補助事業での事業申請（平成24年1月16日）を行い、国から補助事業交付が平成24年2月1日に決定しました。これにより、平成28年度徳之島地区消防組合補正予算（第4号）に計上、併せて事業費をすべて24年度に繰越明許費として、事業予算総額8億2244万1000円で事業を進めています。

次に、消防小型指令台整備事業は、整備更新の必要性として現状の指令台ではデジタル化への対応が不可となり、また現在の指令台は平成11年度に更新、運用開始から12年が経過し、部品の生産中止等により保守対応が限界に達しております。設備の老朽化は、故障率の増加、障害時の復旧の遅れ等により消防司令業務への大きな支障を来す恐れがあります。また災害時の対応で地震や台風、集中豪雨等による津波、高潮、冠水等により1階にある指令台が沈没可能性があり、災害時の対応を図る必要性があります。この手段措置について消防小型指令台整備

事業の予算充当（導入心は三カ町の消防組合負担金として、1億1810万円を計上、三カ町はその消防組合負担金の財源を確保対策事業債の配債で充当し、事業を進めています。

徳之島地区消防組合は、昭和58年10月から業務を開始、今年で27年が経過いたしました。その間、三カ町の人口減少や救急出動件数の増加や消防費交付金の減少など消防行政を取り巻く環境も大きく変化しております。また、町民の消防行政に対する要求等も多様化、高度化しており、併せて今回の東日本大震災を受けて、消防本部の位置等についても検討の要等が寄せられております。今後の消防組合の行政全般について長期的な観点から検討を図ることが必要のため、徳之島地区消防組合長期総合計画設立委員会を立ち上げ、協議していくことになりました。

ら徳之島をどう災害から守るか、どう安心で暮らしやすい徳之島にしていきたいか、徳之島民と三カ町行政が一体となり、さらに協力し合い、考え、安心でより

徳之島愛ランド広域連合議会

- ＊専攻 24年度当初予算
 クリーンセンター（ゴミ処理）
 火葬場管理
 7億440万6千円
 ・食肉センター（特別会計）
 2128万2千円
- ＊構成
 議長 高岡 秀規 徳之島町長
 副議長 徳山 富良 徳之島町議会
 明石 秀雄 伊仙町議会
 監査（学識経験者） 青山 城徳 伊仙町
 監査（議会代表） 福留 達也 伊仙町議会
 議員 行沢 弘榮 徳之島町議会
 広田 徹 徳之島町議会
 大沢 栄宏 徳之島町議会
 上木 隆 伊仙町議会
 松山 静太郎 天城町議会
 柏井 洋一 天城町議会
 平山 榮助 天城町議会



焼肉が持たれる徳之島食肉センター

新しい議会構成決まる

平成24年第2回臨時会を4月23日に開き、議長や各常任委員会構成などを決めました。

議長

大沢章宏



副議長

田袋徹二



常任委員会構成

保健衛生委員会

- 委員長 木原 良治
- 副委員長 保岡 盛寿
- 委員 徳田 進
- 是枝孝太郎

- 田代 敏
- 内 重男
- 大沢 章宏
- 住田 克幸

経済産業委員会

- 委員長 藤井 裕正
- 副委員長 池山 富良
- 委員 芝田 直隆
- 行沢 弘榮
- 幸 千恵子
- 榎阿兵八郎
- 田袋 徹二
- 町 田直男

議会運営委員会

- 委員長 田代 徹二
- 副委員長 木原 良治
- 委員 藤井 裕正
- 保岡 盛寿
- 池山 富良

各種議員

三方町議会議員選挙結果

会議員

- 大沢 章宏
- 田代 徹二
- 木原 良治
- 藤井 裕正

議会だより編集委員会

- 委員長 広田 勉
- 副委員長 徳田 進
- 委員 幸 千恵子
- 行沢 弘榮
- 芝田 直隆

各種委員

監査委員

- 徳田 徹二 (再任)
- 芝田 直隆

国土管理評価委員会

- 石田 行雄 (再任)
- 栗津 実吉 (再任)
- 栗津 雅夫 (再任)
- 花柳 雅博

選挙管理委員会

- 栗津 光子 (再任)
- 栗津 雅夫 (再任)
- 栗津 雅博 (再任)
- 栗津 雅夫 (再任)
- 栗津 雅博 (再任)

調停委員

- 成岡 ひとみ (再任)
- 成岡 隆二 (再任)
- 山 雅也 (再任)
- 加 佳仁 (再任)
- 井市

お詫びと訂正

議会だよりとくのしま(第187号)平成24年6月号の14ページに誤植がありました。客弁のタイトル「平」ではなく「白粉」は「し」の「と」と「すべての食品に適用」が入れ替わっていました。読者及び関係者には大変なご迷惑をお掛けし申し訳ありませんでした。お詫び申し上げます。訂正させていただきます。



4年ぶり
だ、議会広
報編集委員
会に就いて

きました。広報に携わることとは、議会の発展に思いやってみてきたが、今回は、「議会を町民にわかりやすく」の新聞づくりを目指して、会議員で頑張るつもりです。天城町は、TV中継で議会を以前から見ています。伊仙町も去年の12月議会から、インターネットで見えます。本町も開かれた議会を目指して、議会傍聴への案内・日曜議会など開催してきます。また本年度からは予算計上して、

行政は議会が、議会は町民が監視して、町政のレベルアップになります。いい町をつくるためにも、町民目線の情報提示が必要で、当委員会も今年度から新しいメンバーに替わりましたので、見ごたえのある広報紙を目指します。

文責 広田 勉

- 議会だより編集委員
- 委員長 広田 勉
- 副委員長 徳田 進
- 委員 幸 千恵子
- 委員 行沢 弘榮
- 委員 芝田 直隆



編集委員会の新しいメンバーです